

## 電気自動車のカーシェアサービスがスタート

碓 知子

とにかく車が高いシンガポール。以前にハッピーメール（2016年6月号）でもご紹介しましたが、「車を持つ権利（CERTIFICATE OF ENTITLEMENT 略して「COE」）」が日本円にして数百万。それに車体価格と関税がかかるので、なんとマツダ 1.5L セダンで 10 万 S ドル強（840 万円！）。

こうした中、徐々に人気を高めているのが、カーシェアサービスですが、この度、シンガポール初の電気自動車カーシェアサービスがスタートしました。手掛けるのはフランスのポロレ・グループの子会社、ブルーSG です。最初は電気自動車 80 台、充電施設 30 カ所とごちんまりとしたスタートですが、2020 年までに 1,000 台、充電施設 2,000 カ所を目指す計画です。

## ＜電気自動車産業の発展に向けて＞

「初の」と申しましたが、実は電気自動車のカーシェアサービスはブルーSG が初めてではありません。2012 年に、地場のカーシェアサービス大手のスマーブが三菱自動車のアイ・ミーブで、サービスを始めました。しかし約 1 年後、充電インフラの不足と事業成長の懸念から、車種をハイブリッド車に切り替えました。

また、シンガポール最大手のカーシェアサービス会社のカークラブは、2015 年から南洋工科大学と 10 台の電気自動車のカーシェアサービスを提供しています。いずれも大々的な展開ができないのは充電設備の不足に加え電気自動車の購入コストが最大の理由です。電気自動車とはいえ、1 台あたり数百万円の COE を買わなければならないのは普通の自動車と同じなのです。1,000 台揃えようとするとかかなりの投資額になります。

電気自動車の技術は日進月歩。欧州のノルウェーやオランダでは、電気自動車購入のための補助制度や公的資金を投入して充電設備を整備しています。ガソリン車産業にはあえて手を出さなかったシンガポール。電気自動車産業を取り込むためには、電気自動車を買いやすくしたり、ブルーSG のような電気自動車カーシェアを後押ししていくことも必要かもしれません。



（ブルーSG 充電中）